

中期目標・中期計画・平成25年度末評価

北海道情報大学

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
I 大学の目標			
<p>「情報化社会の新しい大学と学問の創造」という建学の理念に基づき平成22年度に、本学が果たすべき機能として1. 情報を核とする高度な専門職業人養成機能、2. 国際性と豊かな人間性を育む教養教育機能、3. 情報に関わる通信教育の拠点機能、4. 地域貢献・産学連携機能を明確化するとともに、「使命・目標」、大学としての「教育目的」について見直し、必要な改定を行った。これらの周知を図るとともに、今後も本学に対する社会からの要請を真摯に受け止め、必要な場合には更なる見直しを進める。また、各学部・学科等、大学院研究科、通信教育部においても、共通教育、専門教育の双方について、教育目的等を明確化し、その周知に努める。</p> <p>中期目標の期間は、平成23年4月1日から平成28年3月31日とする。</p>			
<p>(1) 理念、使命、目的、果たすべき機能の明確化</p> <p>1 本学の「使命・目標」、「教育目的」等が世界的に大きく変動しつつある社会からの要請に応えるものとなっているかをたえず検討し、必要な場合には見直しを進める。</p> <p>2 各学部・学科・通信教育部の共通教育、専門教育及び大学院研究科の教育目的等を明確にし、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>1-1 外部有識者、同窓生、保護者、企業等からの聞き取り調査等により、本学に求められていることを調査・検討する。</p> <p>2-1 大学全体の理念、使命・目標、教育目的との整合性を踏まえ、またそれぞれに対する社会からの要請を反映して、必要に応じて、教育目的の見直しを行う。</p>	<p>1-1-1 これまでの調査結果等を踏まえ、外部有識者、同窓生、保護者、企業等からの意見等を分析し、必要があれば見直しを進める。</p> <p>【経営情報学部】 2-1-1 本学部の教育目的と社会からの要請とに乖離がないかどうかのチェックを実施する。</p> <p>【先端経営学科】 2-1-1 本学科の教育目的と社会からの要請とに乖離がないかどうかのチェックを、継続して実施する。ポリシーとコンテンツとの間に乖離が生じた場合には、速やかに対策を講じる。</p> <p>【システム情報学科】 2-1-1 新コースの平成25年度開講科目を計画通り実施するとともに、平成26年度以降の具体的な準備を行う。</p> <p>【医療情報学科】 2-1-1 新設医療情報学部を用意された新カリキュラム構成にて教育を実施するとともに、改良点や問題点の抽出を行う。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】 2-1-1 学部・学科の教育目的と社会からの要請とに乖離がないかどうかのチェックを継続する。</p> <p>【研究科】 2-1-1 引き続き教育目的の見直しを必要性を含めて検討する。</p>	<p>カリキュラム・アドバイザーボード会議、大学説明会、保護者の役員会、同窓会との意見交換会などを通し、本学における今後の教育目標に対する意見を収集した。</p> <p>【経営情報学部】 大学説明会(6月10日)、カリキュラムアドバイザーボード会議(9月6日)、同窓会との意見交換会(10月12日)等において、チェックを行った。</p> <p>【先端経営学科】 保護者懇談会の個別相談において学生の学業に対する姿勢及び大学の就職指導に対して保護者から意見を聴取した。</p> <p>【システム情報学科】 平成25年度の後期科目は、計画通り実施した。平成26年度開講予定の科目は、非常勤教員を含め教員は確保され、準備は完了した。</p> <p>【医療情報学部・医療情報学科】 新設医療情報学部を用意された新カリキュラムは、平成25年度当初より随時実施されている。開講期や担当者の変更など、改良点や問題点などについては、学部内で協議し適切に対処した。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】 大学説明会(6月10日)、カリキュラムアドバイザーボード会議(9月6日)、企業・病院説明会(2月27日)において外部の意見を収集したが、教育目的の見直しにつながる意見はなかった。次年度入学者数の減少が、教育目的に起因するか否かの検討は、平成26年度に実施する。</p> <p>【研究科】 分野・プログラムの見直しのWGを教務学生委員会のもとで開設し、検討を開始したので、平成26年度以降、その結果を見ながら検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
		【通信教育部】 2-1-1 通信教育部の教育目的等を明確にし、必要に応じて見直しを行う予定である。	【通信教育部】 教育目的などを踏まえ、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの明文化を行った。
（２）理念、使命、目的、果たすべき機能の周知 学生や教職員への周知徹底を図るとともに、広く学外にも周知する。	大学案内、学内報「ななかまど」、学生便覧、パンフレット等の各種刊行物、ホームページ、各種行事における理事長や学長の挨拶等、多様な機会を通して周知を図る。	平成24年度に把握した学生及び教員への周知度を分析し、必要な改善を図る。	平成24年度実施の調査結果を分析し、外部評価に繋げた。本学の建学の理念・使命・目的・果たすべき機能に関して、職員への周知度アンケートを10月に実施した。
Ⅱ 教育に関する目標 Ⅱ－１ 学士課程教育・大学院教育に関する目標			
（１）教育研究組織に関する目標 ◎学士課程 1 教授会、教務委員会等の各種委員会及び共通教育協議会が適切に整備され、機能する。 2 適正な学部、学科、専攻、コースがあり、それぞれの教育研究の目的の実現に相応しい構成になっている。 3 CANVAS、POLITEを中心としたICTが、学生の教育・学習に活用できるように整備され、十分に機能している。 ◎大学院 大学院教育に対する社会の期待に応えるため、多様な修了プログラム・カリキュラム等を大学院の拡充を視野に入れて検討し、質の高い教育を追求する。	1-1 定期的に問題点の洗い出しを行い、必要があれば改善策を検討し、改善を図る。 2-1 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員がそれぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを定期的に確認する。 3-1 CANVAS、POLITEをはじめとした教育・学習システムの機能を拡充するとともに、より幅広い利用を促進するような支援活動や啓蒙活動を続ける。 必要に応じて大学院の拡充等の見直しを検討する。	1-1-1 平成24年度に実施した各種委員会活動状況調査の結果と適切性の評価を基に、必要があれば見直しを進める。 3-1-1 利用者の要望等に応じて、随時、システムの再検討や改修を行う。 引き続き、学部の改変に合わせた分野やプログラムの構成について検討を進める。	平成24年度に実施した各種委員会活動状況調査について、本年度も実施したが、適切性などについては、平成26年度に複数年のデータを基に見直すこととした。 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員が、それぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを検討するために教育研究戦略委員会を発足し、新たな教員補充を行った。 平成25年度のカリキュラム改訂に伴い、コンピテンシーの可視化の項目の見直しを行った。 分野・プログラムの見直しのWGを教務学生委員会のもとで開設し、検討を開始した。
（２）教育の成果に関する目標 ◎共通教育 学士に相応しい基礎学力と教養を身に付けさせる。 ◎専門教育 卒業時に修得すべき内容を明らかにして、学士の質を保証する。	基礎学力、論理的思考力、国際感覚、情報リテラシー、将来のキャリアを準備する能力などを身に付けさせるため、共通教育科目の充実を図る。 卒業試験や卒業時に修得すべき内容などの検討により学士の質を保証するための具体策を設定する。	平成25年度から開始される新科目(教養特別講義)の成果を確認する。 【経営情報学部】 卒業試験や卒業時まで修得すべき内容などの見直しを継続する。 【先端経営学科】 平成24年度に実現した「卒業論文作成講座」、「卒業論文中間発表会」を継続して実施する。	「教養特別講義」は、教養教育科目で学習した基礎的なディシプリンの発展として3、4年生を対象として開講する科目であり、平成25年度は数学分野から「集合と位相」を開講したが、受講者はいなかった。その原因と平成26年度の対策について、検討を進めた。 【経営情報学部】 卒業試験や卒業時まで修得すべき内容などの見直しを実施したが、今年度は特に改善すべき点はなかった。 【先端経営学科】 「卒業論文中間発表会」を11月13日に「卒業論文発表会」を2月4日、5日に行った。「卒業生論文作成講座」については、各ゼミで昨年の要領に基づいて実施した。

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>◎大学院 大学院教育に対する社会の多様な要請に相応しい学位を授与する。</p>	<p>修士論文と特定課題研究の審査基準を明確化する。</p>	<p>【システム情報学科】 卒業試験や卒業時までには修得すべき内容などの見直しを継続する。</p> <p>【医療情報学科】 新設医療情報学部に適した新しい医療関連資格の追求と、取得の可能な検討を続ける。卒業単位数及び必修・選択科目等の区分については、本年度用に用意された計画を実施する。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】 シラバスやコンピテンシーの見直しを適宜実施する。</p> <p>特定課題研究の内容、評価方法等について各分野、プログラムで検討し決定する。</p>	<p>【システム情報学科】 卒業試験については検討できなかったが、卒業時までには修得すべき内容の見直しを実施し、改善すべき点はなかった。</p> <p>【医療情報学部・医療情報学科】 新設医療情報学部に適した新しい資格として食品健康管理士及び医療経営士を設定し資格取得に体制を整えつつある。また、診療情報管理士及び医療情報技師についても引き続き高い取得率を目指すために資格教育を充実させた。卒業単位数及び必修・選択科目については、計画通り実施した。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】 科目間の連携について見直しを行った。</p> <p>修士論文、特定課題研究の定義について調査したが、評価方法等についての結論は得られなかった。</p>
<p>(3) 教育の内容・方法等に関する目標</p> <p>◎共通教育</p> <p>1 社会人基礎力としての教養を磨くための共通教育を実施するにあたって、科目特性に適合した効果的なクラス展開や指導方法を確立する。</p> <p>2 国際性と豊かな人間性を育む教養教育を軸として、専門教育との整合性やバランスに配慮したカリキュラム体系を構築する。</p> <p>◎専門教育</p> <p>1 カリキュラムポリシーを実現するため、それぞれの科目特性に適合した形態、及び学習指導方法等を充実する。</p>	<p>1-1 関連する科目間及び各科目内での担当者の密接な連携をはかる。</p> <p>1-2 eラーニング教育、学生参加・発表型科目を充実させる。</p> <p>1-3 クラス規模の適正化について検討する。</p> <p>2-1 カリキュラムの目的が達成されているかどうかを検討し、必要に応じて調整、改正を行う。</p> <p>1-1 eラーニング教育、学生体験型、学生参加型科目を充実させる。</p>	<p>1-1-1 引き続き「ビギナーズセミナーⅠ」「ビギナーズセミナーⅡ」と「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」の連携を図る。</p> <p>1-2-1 フルeラーニング教育としての必修科目「キャリアデザインⅢ」を円滑に実行し、成果を確認する。</p> <p>1-3-1 必修科目、外国語科目におけるクラス規模の適正化を図る。</p> <p>2-1-1 学生のコンピテンシー達成度のデータを蓄積し、検証方法の検討に着手する。</p> <p>1-1-1 医療情報学科の科目でeラーニング教材の開発に着手する。</p>	<p>「ビギナーズセミナーⅠ」、「ビギナーズセミナーⅡ」と「日本語表現Ⅰ」、「日本語表現Ⅱ」を連携して実施した。</p> <p>フルeラーニング教育としての必修科目「キャリアデザインⅢ」を円滑に実行した。</p> <p>「ビギナーズセミナーⅠ」、「ビギナーズセミナーⅡ」は、クラス規模15人～20人程度で実施しているが、一部のクラスは約30人のままであることから、適正化を行った。英語各科目について、英語担当者でクラス規模の適正化について検討を進めた。</p> <p>学生のコンピテンシー達成度のデータの蓄積を継続した。</p> <p>国際交流科目として「国際コラボレーション」を新規開講し、本学学生とラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校の学生の混成グループによるWeb作品制作を内容とするワークショップ形式の授業を実施した。また、平成26年度の授業範囲充実の準備として、ショートフィルム制作を内容とするワークショップも同時期に実施し、Web制作と合わせて両大学で合計41名の学生が参加した。これをもって、本学におけるグローバル人材育成の嚆矢とした。</p> <p>科目「臨床医学総論」のeラーニング教材を作成し、平成26年度後期から使用する予定。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>2 4年間を通して効果的なカリキュラム体系を作成し、理解力、応用力、問題解決力を高める。</p> <p>◎大学院</p> <p>1 大学院に対する新しい学問的・社会的要請に相応しい、体系的な教育方法を柔軟かつ適切に構築する。</p> <p>2 多様化する大学院志願者の能力を多面的に育成する。</p>	<p>1-2 チームティーチング制度を導入する。</p> <p>1-3 PBL(Project Based Learning)、Active Learningを採用可能な科目についてその実現を推進する。</p> <p>1-4 時間割配置を見直し、3学期制、授業時間の適正化などを検討する。</p> <p>1-5 ゼミの配属決定時期を再検討し、各ゼミへの配属人数の最適化を目指す。</p> <p>1-6 資格やスキルアップに関係する専門科目を充実させる。</p> <p>2-1 各学科の特徴に応じて、4年間を通したカリキュラムの検討作業を継続する。</p> <p>1-1 eラーニング教育を充実させ、チームティーチング制度やPBLを採用可能な科目についてその実現を推進する。</p> <p>2-1 社会が必要とする高度技術の修得や職業経験者のスキルアップのためのカリキュラムを整備する。</p> <p>2-2 大学院教育の弾力化・多様化・活性化を図るために指導教員の構成を検討する。</p> <p>2-3 留学生に対する教育カリキュラムを整備・充実する。</p>	<p>1-1-2 平成25年度も引き続き継続実施する。</p> <p>1-2-1 平成25年度も引き続き継続実施する。</p> <p>1-3-1 先端経営学科では科目「ビジネスプラン」でPBL型授業を実施する。システム情報学科では平成24年度の実施経験を反映しながら、引き続き「プロジェクトトライアル」をPBL授業として実施する。</p> <p>1-4-1 時間割配置の妥当性を確認し、必要があれば見直しを検討する。</p> <p>1-4-2 主体的な学びに必要な学修環境を検討する中で、本学でのあるべき姿の原案を作成する。</p> <p>1-5-1 情報メディア学科では、試行の結果を受け、必要があれば更なる改善を検討する。</p> <p>2-1-1 引き続きデータの蓄積を継続しつつ、検証方法の検討に着手する。</p> <p>1-1-1 本学における必要性を含めて検討を進める。</p> <p>2-1-1 本学に入学を希望する職業経験者像を明らかにし、必要な教育内容を検討する。</p> <p>2-2-1 複数指導教員による指導体制の構築について引き続き検討する。</p> <p>2-3-1 留学生に特別にどのような教育が必要かについて、引き続き検討する。</p>	<p>学生参加型科目として、先端経営学科、システム情報学科で科目「インターンシップ」、情報メディア学科で科目「インターンシップⅡ」を実施した。医療情報学科では、科目「病院実習」の実施依頼を関係機関に行った。</p> <p>先端経営学科では科目「ICT入門」、システム情報学科では科目「プロジェクトトライアル」、医療情報学科では科目「プログラミング入門」及び「Javaプログラミング基礎演習Ⅰ」、情報メディア学科では科目「メディアデザインの基礎演習」、「プロジェクトトライアルⅠ」、「プロジェクトトライアルⅡ」、「造形基礎・演習」等で実施した。</p> <p>先端経営学科では科目「ビジネスプラン」、システム情報学科では科目「プロジェクトトライアル」、情報メディア学科では科目「プロジェクトトライアルⅠ」、「プロジェクトトライアルⅡ」で実施した。</p> <p>時間割作成モデル検討WGを立ち上げ、時間割作成作業の改善方策について検討した。</p> <p>学期制や授業時間に着目した履修モデルを検討した。</p> <p>情報メディア学科では、昨年度の試行結果に若干の変更を加え実施した。</p> <p>昨年度に引き続きデータの蓄積を行うとともに検証方法の検討を実施した。</p> <p>分野・プログラムの見直しのWGで一部検討したが、結論は得られなかった。</p> <p>グループ企業からの受入の可能性や産学連携の必要性等について検討した。</p> <p>修士論文の指導における複数教員の指導の有効性等について検討した。</p> <p>検討できなかった。</p>
<p>(4) 学生の受入れに関する目標</p> <p>◎学士課程</p>			

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>1 一般・センター・AO・推薦の各入試の位置づけを明確にし、各学科のアドミッションポリシーに合う人材を社会に広く募集し、確保する仕組みを構築する。</p> <p>2 AO・推薦での入学予定者の入学前教育を充実する。</p> <p>◎大学院 既定のアドミッションポリシーを一層明確にするとともに、学生及び職業経験者の意欲・能力・適性などを多面的に評価する多様な入学選抜を実施する。</p>	<p>1-1 必要に応じて、毎年度アドミッションポリシーの見直しを行う。</p> <p>1-2 オープンキャンパス、学内外での模擬授業、公開講座、高大連携などで、本学のアドミッションポリシーを社会に周知するための機会を、広く提供する。</p> <p>2-1 AO・推薦での入学予定者の入学前教育について効果的なあり方を確立する。</p> <p>学習能力及び学習意欲を備えた職業経験者・学生・留学生を積極的に受け入れる選抜方法を整備する。</p>	<p>【経営情報学部】 1-1-1 必要に応じて、アドミッションポリシーの見直しを行う。</p> <p>【先端経営学科】 1-1-1 必要に応じて、アドミッションポリシーの見直しを引き続き行う。 ポリシーとコースとの間に乖離が生じた場合には、速やかに対策を講じる。</p> <p>【システム情報学科】 1-1-1 必要に応じて、アドミッションポリシーの見直しを行う。</p> <p>【医療情報学部】 1-1-1 本年度からの新規アドミッションポリシーに合う人材募集を、新設医療情報学科の学年次進行に伴って押し進める。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】 1-1-1 必要に応じて、アドミッションポリシーの見直しを行う。</p> <p>【広報連絡協議会】 1-2-1 医療情報学部開設など改組改編に基づく平成25年度からの新体制を考慮に入れて、オープンキャンパス・学内外での模擬授業・高大連携の取組を推進する。</p> <p>【医療情報学部】 1-2-2 公開講座、高大連携については、新設医療情報学部においても従来通り実施する。なお、広報を目的として地方におけるオープンキャンパスの在り方については、さらに検討を続ける。</p> <p>2-1-1 入学前教育の実施状況を踏まえ、効果的な方法、体制等を検討し、実施する。</p> <p>アドミッションポリシーの見直しを実施し、引き続き、本学通学生及び通信教育部からの進学者増の方策を検討し、実施する。</p>	<p>【経営情報学部】 アドミッションポリシーの見直しは、今年度は必要なかった。</p> <p>【先端経営学科】 アドミッションポリシーの見直しが必要であるか否かを検討したが、明白なポリシーとの乖離は見られなかった。</p> <p>【システム情報学科】 カリキュラム検討WGにおいて、現状では見直す必要がないことを確認したが、入学者数の減少を受け止め、平成26年度に検討することとした。</p> <p>【医療情報学部・医療情報学部】 新規アドミッションポリシーをHP上に記載し、さらにオープンキャンパスでも入学希望者を対象にポリシーに関わるアピールを行った。 また、学年次進行に従ってアドミッションポリシーにかなう人材の育成に尽力した。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】 アドミッションポリシーの見直しの必要性を検討し、現時点では不要との結論を得た。</p> <p>学科別のオープンキャンパスを実施して、学科に特化した模擬授業を行うと共に詳細な学科説明を行う事で改組改編に基づく学部・学科・専攻・コースの周知を図った。 また、本学の改組改編を考慮に入れて広報活動を行うと共に新しいアドミッションポリシーを大学案内、大学紹介DVDに反映させてオープンキャンパスの参加者に配布し、説明し周知を図った。 とわの森三愛高等学校とeラーニング(無限大キャンパス)を使用した高大連携の協定を締結した。</p> <p>平成24年度に実施した入学前教育の改善点を踏まえ、内容を一部変更して実施した。</p> <p>アドミッションポリシーの見直し及び本学通学生の進学者増の方策は、検討できなかった。通信教育部からの進学者増については、通信教育部の教育責任者協議会で大学院への進学の推奨をお願いした。</p>
<p>（5）教育の実施体制に関する目標</p> <p>◎学士課程 1 多様化に対応して少人数対応の科目を配置するなど、個々の学生に目が行きとどいた教育を実施するための全学的な取り組みを強化する。</p>	<p>1-1 各教員及び教員相互の自己点検を強化するために、学科長、各種委員会、FD組織など教職員の連携を強化する。</p>	<p>【先端経営学科】 1-1-1 平成24年度に構築した1年生前期から卒業までの少人数教育体制を運用していく。</p>	<p>【先端経営学科】 少人数教育体制を運用実施した。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
2 教員の年齢構成の適正化、教員の活性化・スキルアップを図る。	2-1 教員の年齢構成の偏り解消に努め、教員の各学科への適正配置、複数の教員が担当可能な専門科目でのローテーションなど柔軟な運営を計画する。	<p>【先端経営学科】 1-1-2 平成24年度に構築した主要必修科目の完全セメスター制度を運用していく。</p> <p>【システム情報学科】 1-1-1 複数の科目を複数の教員で担当するという体制における教員の担当科目ローテーションの検討を継続する。</p> <p>【医療情報学科】 1-1-1 学科内の自己点検評価及び相互点検評価は従来通り実施する。資格取得対策を対象として、少人数構成による対策講座などの検討を行う。</p> <p>【情報メディア学科】 1-1-1 多様化に対応した講義を実施できる体制を検討する。</p> <p>【先端経営学科】 2-1-1 年齢構成も考慮した教員の採用を行い、組織の活性化を図る。</p>	<p>【先端経営学科】 主要必修科目の完全セメスター制度を運用した。</p> <p>【システム情報学科】 プログラミング系科目担当者及びカリキュラムWGで検討した結果、効果が不透明であるため、当面は教員の担当科目ローテーションを実施しないこととした。</p> <p>【医療情報学科】 FD活動におけるピアレビューを通し、教員相互間の相互点検評価並びに自己点検評価を実施した。医療情報技師資格対策講座を実施し、また各ゼミにおいて少人数構成での対策講座を実施した。診療情報管理士資格対策講座を実施し、また学生の主体的な試験対策への取り組みを指導した。</p> <p>【情報メディア学科】 学科会議において意見交換を行い検討に着手した。平成26年度に継続する。</p> <p>【先端経営学科】 組織の活性化を図り、年齢構成をも加味した教員募集を実施した。</p>
3 ICTの利活用と教育方法の改善によるFD及び教育イノベーションを推進する。	2-2 共通教育科目間の授業内容や教育効果に関する情報を共有し、基礎科目の少人数教育、教養科目におけるクラス規模の適正化を図る。	<p>【医療情報学科】 2-1-1 学年進行に伴って、採用すべき教員については、現在の年齢構成を崩すことのないように適正配置を心がけ、求める教育・研究分野に適する人材を審査する。</p> <p>【情報メディア学科】 2-1-1 年齢構成を考慮した教員の採用を行い年齢構成の適正化を図る。</p> <p>【医療情報学科】 2-2-1 昨年度作成した実用的カリキュラム案を、学年進行に沿って実施する。</p>	<p>【システム情報学科】 教員の公募を行い、改組改編で追加した科目、コースの運営及び学科運営に適切な教員を採用することができた。</p> <p>【医療情報学科】 次年度より人事構成を確立するために、栄養学担当の教員(38)並びに医療経営学担当の教員(27)を採用することとした。また、教員の退職に伴い、診療情報管理学担当の教員(56)及び食と健康と情報担当の教員(61)の採用することとした。()内年齢。 なお、年齢構成は、27歳から61歳とバランスを考慮して採用を行った。</p> <p>【情報メディア学科】 教員の公募を行い、計画通りに採用することができた。</p> <p>【共通教育】 英語教員の退職に伴い、教員の公募を行い、計画通りに採用することができた。</p> <p>【医療情報学科】 平成24年度の新学部立ち上げのために作成したカリキュラムにそって実施した。</p>
	3-1 教育GPで開発したFD支援システムCANVASを活用し、授業改善のためのPDCAサイクルの定着化を図る。	3-1-1 CANVASを利用した授業改善の活動を引き続き実施する。必要に応じて、システムの改善を行う。	前期の授業改善計画、ピアレビュー、授業評価アンケートなどをCANVASを利用して実施した。

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
	<p>3-2 授業改善のための諸制度・システム、ファカルティポートフォリオ等をより一層充実させ、教育の質を高めるために必要な情報の共有化を図る。</p>	<p>3-1-2 CANVASの利用を促進するための方策を検討する。</p> <p>3-2-1 iPad導入時の授業評価アンケートについて事前検討を行う。</p> <p>3-2-2 ピアレビューを実施し、ピアレビューのあり方について検討する。</p> <p>3-2-3 iPadをシステム情報学科の学生に貸し出し、講義内外でiPadを利用し、iPadによる主体的な学習を促すことを試みる。</p> <p>3-2-4 カリキュラムアドバイザーボード会議を開催する。</p> <p>3-2-5 「学生FDとの連絡会議」を定期的に開催し、授業改善に向けた共同検討作業を実施する。</p> <p>3-2-6 私情協や大学ICT推進協議会等に参加し、情報収集を行い、本学のICT活用に利用していく。</p> <p>3-2-7 新任教員研修会、教育方法に関する研修会、国際FDエキスパートフォーラム等の研修内容を検討し、実施する。</p> <p>3-2-8 研修会参加を促進するためのインセンティブを検討する。</p> <p>3-2-9 FDウェブサイトCANVASからアクセスできるようにして活用の促進を図る。</p>	<p>学部教授会、学科会議等で実施していただくよう案内していただいた。また、締切の前後で未実施の教員にメール等で実施を促した。</p> <p>回収率の改善策として、iPad貸与試行クラスの対象科目に講義時間内にiPadによるアンケート回答の実施を依頼したが実施クラスは半数未満であった。実施率を高める仕組みが必要である。</p> <p>年2回のピアレビューを実施し、教員全員が取り組んだ。ピアレビューの方向性についてもメンバー内で検討した。</p> <p>システム情報学科の1年生で、ビギナーズセミナーを中心に実施した。</p> <p>平成25年9月6日(金)、「大学における基礎教育」をテーマに、第8回カリキュラム・アドバイザーボード会議を開催した。</p> <p>前期は「学生FDとの連絡会議」の開催が1回のみであったが、新メンバーが参加し、3月8日、9日に開催された学生FDサミットに参加した。また、メンバーが学科で偏らないように各学科へメンバー選出を依頼した。</p> <p>11月1日の札幌大学FD講演会、12月18、19日の大学ICT推進協議会に参加し、情報収集を行った。私情協の「物理学教育FD/ICT活用研究委員会」に委員として2回参加し、教育モデルについての討議と情報収集を行った。</p> <p>10月15日(火)から10月18日(金)のEDUCAUSE年次大会(米国カリフォルニア州アナハイム)に参加した。</p> <p>平成25年4月25日(木)に本年度第1回、平成25年11月28日(木)に第2回の新任教員研修会を実施した。</p> <p>平成25年9月17日(火)に国際FDエキスパートフォーラム2013を実施した。</p> <p>平成26年3月7日(金)に北海道情報大学FDフォーラムを実施した。</p> <p>打合せを数回行ったが、具体的な案に至らなかった。</p> <p>実施できなかった。</p> <p>平成26年2月22日(日)から3月2日(日)に米国大学等を訪問し、iPad活用授業等の調査を行った。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>4 個々の学生のラーニングアウトカムや活動を総合的に把握し、学生の意欲向上につながる学習環境を構築する。</p>	<p>4-1 「教える」から「学ぶ」教育方法の調査・研究を進めながら段階的に学習環境の整備を図る。</p>	<p>4-1-1 教育アドバイザーの試行状況に関するアンケートを実施し、制度としてのあり方を検討する。</p>	<p>教育アドバイザーの試行状況に関する今年度第1回目のアンケートを実施し、制度化へ向けて検討中。2回目は12月9日(月)から12月20日(金)に実施した。</p> <p>プログラミングにおける学生の興味関心をアンケート調査し、学生の注意を引き付け、意欲を引き出すための教育方法について調査・視察を行った。これをもとに授業の改善方法の検討を行った。</p> <p>文部科学省の「平成24年度私立学校施設整備費補助金」及び「平成25年度私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金」により、iPadを870台購入し、平成26年度から1・2年生の全員に貸与することとした。</p>
	<p>4-2 学生を大切に育てる環境として、ICTを活用しながら教職員と学生(学習チュータ等)が協同する仕組みを検討し、試行する。</p>	<p>4-2-1 「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデル」を経営情報学部システム情報学科1年生を対象に試行、評価する。</p>	<p>システム情報学科の1年生で、ビギナーズセミナーを中心に実施した。</p> <p>システム情報学科1年生での試行を踏まえ「主体的学びに導くための実行プラン2014」を企画・立案した。具体的な項目は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先輩の職場見学 ○シリアスゲームによる職業疑似体験 ○教員の専門分野探索 ○将来目標設計 ○コンピテンシー達成状況(POLITE) ○主体的な学びに導くためのマルチメディア・アテンション教材「ビギナーズセミナー資料集」 ○電子教科書と電子教科書配信サービスの利用 ○kaiwa2(学生とのインタラクティブなやりとり) ○授業運営モデル(iPadを活用したアクティブラーニング) ○主体的学びに導くための授業計画シート ○iPad: m(モバイル)ラーニングのツール ○主体的学びの世界パスポート ○心理アンケート ○担任を支援するためのケア支援チーム(2チーム)を立ち上げる。 <p>POLITEに学生の学習成果に対して発行するバッジを導入し、幾つかの授業で試行した。バッジの導入やシリアスゲームの試作等の本学の取り組みについて、日本デジタルゲーム学会にて発表を行った。</p>
	<p>4-3 GPAの積極的活用とGPA導入に伴う諸制度及びシステムの充実を図る。</p>	<p>4-3-1 引き続きデータ分析を継続し、データを適宜開示していく。また、学生用のPOLITE上での情報公開との折り合いを模索し、有効な情報提供を検討する。評価の格差について、継続して検討する。</p> <p>4-3-2 学生のインセンティブを上げるGPA活用について、検討するとともに広く意見を募ることを検討する。</p>	<p>WG3とPOLITE上での情報公開の役割分担を決めた。GPAデータの分析を継続して行い、評価の格差についてWG3で検討を進めている。</p> <p>学生のインセンティブを上げるGPA活用をWG3で検討を進めている。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>◎大学院 大学教育や職業経験者から大学院教育への円滑な接続を図り、大学院の教育目標を達成するために、学習の継続性を確保する。</p>	<p>4・4 個々の学生のコンピテンシーの達成状況を可視化し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>大学院教育と学士課程教育の連携体制を整備し、大学院教育に対する職業経験者の多様な期待に対応する。</p>	<p>4・4・1 科目の単位取得との関連以外のコンピテンシーの達成度(ルーブリックなどを参考に)の提示方法等について検討する。</p> <p>大学院の科目と学士教育科目の関連付けなどの検討を引き続き行う。</p>	<p>カリキュラム変更に伴うコンピテンシーの見直しは実施したが、ルーブリック等の検討はできなかった。</p> <p>検討できなかった。</p>
<p>(6) 学生の支援に関する目標</p> <p>◎学士課程 1 学生の学習実態を把握し、学内関係組織等と連携して多様な学力の学生に対する授業内外での適切な学習支援を行うとともに、主体的・自立的な学習習慣を涵養する。</p> <p>◎学生生活への支援 1 学生サービス、厚生補導等の支援体制の整備充実、学生支援組織の適切な運営に努め、学生生活環境を整備充実する。</p> <p>◎留年・退学者対策</p>	<p>1-1 保護者、学習支援センター、図書館、共通教育協議会、各学科及び教務委員会、クラス担任等との連携を図り、授業内外での学習が円滑に行えるよう支援を行う。</p> <p>1-2 自習室やグループ学習室でのピアサポートを通じて、授業内容を発展させるために学習支援し、主体的・自立的な発展学習を促す。</p> <p>1-1 学生の意見等を踏まえながら継続的に学生のニーズを反映したサービスの充実を図る。</p> <p>1-2 学生満足度調査を定期的に実施しその結果を公表する。</p> <p>1-3 食堂、売店、学生宿舍等の福利厚生施設を再点検する。</p>	<p>1-1-1 英語、数学、国語に関する基礎学力が不足している学生に対して基礎教育の経験者等による学習支援を継続して実施する。</p> <p>1-1-2 学生の退学対策とも連携しつつ、学生の保護者との懇談会の実施方法等について、新たに設置された「保護者との懇談会の在り方検討ワーキンググループ」で検討する。</p> <p>【医療情報学科】 1-2-1 新設学科においても毎年実施の資格対策を見直し、より効率的かつ確実性の高い対策講座を実施するための検討を行う。</p> <p>【学習支援センター運営委員会】 1-2-1 学内外のコンテスト、資格取得、ピアサポートルーム、チュータ活動等の充実について引き続き検討する。</p> <p>1-1-1 学生満足度調査結果その他学生の意見等を踏まえながら学生サービスの充実について引き続き検討する。</p> <p>1-2-1 平成23年度に実施した学生満足度調査を踏まえ、次の調査実施時期等について検討する。</p> <p>1-3-1 学生満足度調査結果その他学生の意見等も踏まえながら福利厚生施設等の整備充実について引き続き検討する。</p>	<p>学習支援が必要な学生、特に英語、数学、国語に関する基礎力が不足している学生に対して、基礎教育の経験者(3名)による学習支援を実施し、学習の到達度からみて一定の成果を上げることができた。</p> <p>9月に実施した「保護者と教員との懇談会」の実施内容・反省点等を踏まえ、ワーキンググループで検討を行った結果、平成26年度は開催時期を変更するとともに、就職関係で専門講師によるセミナーも併せて開催することとした。</p> <p>【医療情報学科】 医療情報技師の資格対策講座を見直し、学生にとって弱点である情報処理技術分野を厚くして実施し、効率的な対策講座を行った。</p> <p>【学習支援センター運営委員会】 学内のコンテストについては、各学科担当教員から提出された実施にかかる企画書に基づき、計画的な実施に努めた。新たにショートフィルムコンテスト、ポスターコンテストを加え充実を図った。資格取得、ピアサポートルーム、チューター活動については、学習支援センターにおいて実施計画を立てるとともに、実施状況の確認、改善策の検討を行いつつ効果的な実施に努めている。特に資格取得については、12月に調査を実施し資格取得の実態を把握するとともに、受験料補助の対象となる資格の見直しを実施した。</p> <p>学生満足度調査その他学生の意見等を踏まえながら学生サービスの改善充実の検討を行い、一部ではあるが、改善(喫煙所改修)を図った。</p> <p>平成23年度に実施した学生満足度調査の結果を踏まえて、次回の調査時期の検討を行った結果、平成26年度に実施することとした。</p> <p>学生満足度調査結果その他学生の意見等を踏まえながら福利厚生施設等の改善充実事項の検討を行い、学生宿舍の自転車置き場の改修を図った。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>社会の高度化、複雑化を背景とした学生の多様化に対応して、留年生、中途退学者を減少させる。</p> <p>◎卒業後の進路、就職支援</p> <p>1 学生の職業意識を高めるとともに、資格取得支援教育を拡充するなど、学生の就職活動を多面的に支援する。就職支援に関する体制、指導内容等について必要な見直しを行い、学生の意識・意見等も踏まえながら就職支援と進路指導の適切な実施に努め、就職委員会と学部、学科、関係委員会、各教員等との連携による就職指導体制の充実を図る。</p> <p>◎健康増進</p> <p>1 学生の健康の保持、学生相談等に関する体制整備を図るとともに、保健センター及び学生相談室の業務の充実に努める。また保健センター及び学生相談室における健康、悩み、その他学生のあらゆる生活上の問題に関し効果的な支援を行う。</p>	<p>eアシーナなどの出欠情報を活用し退学学生の早期発見と組織的対応のマニュアル化を検討し、教務委員会、学生委員会、共通教育教員、専門教育教員、保護者等と連携して指導し、学力不振学生に対し学習指導・生活指導を行い、その後の対応等も含めて検討する。</p> <p>1-1 各学科、学生サポートセンターを始めとする関係部署との連携、情報共有を図ることにより教員の就職に対する意識の向上を図る。</p> <p>1-2 就職相談・助言等の就職指導体制を整備し、就職説明会の開催、就職情報の提供、就職活動への動機づけ等、多様な就職支援策を検討する。</p> <p>1-3 各種資格の取得にむけ資格試験対策講座を実施するなどし、合格率を向上させるよう努める。</p> <p>1-4 新規インターンシップ受入企業の開拓について検討する。</p> <p>1-1 保健センター及び学生相談室の運営体制等の見直しを行い、各種の問題に対し学内外の関係組織等との連携を図りつつ、遅滞なく適切に対処するための体制を整備する。</p>	<p>【全学教務・FD委員会】</p> <p>「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデルの開発」の取組の中で具体的に検討し、実施する。</p> <p>【学生委員会】</p> <p>全学教務・FD委員会の具体化の検討を受けて、学生委員会に関わる必要な対応等を検討する。</p> <p>1-1-1 各学科教員等との連携による就職指導の在り方について検討するとともに、指導の内容、指導方法等の充実について、引き続き就職委員会において検討する。</p> <p>1-2-1 就職相談・助言等の指導体制を充実し、教職員や外部組織とも連携した就職指導の強化について引き続き検討する。</p> <p>1-2-2 就職環境・内定状況に応じた支援プログラム等を機動的に企画実行し就職率の向上に努める。</p> <p>1-3-1 各種資格対策講座を実施し、資格取得者の増に努める。</p> <p>1-4-1 インターンシップ受入企業の開拓について、昨年度の実績を踏まえて、さらに受入企業の拡大に努める。</p> <p>1-1-1 保健センター、学生相談室の連絡会議を定期的に開催し運営の円滑化を図る。</p>	<p>ケアが必要な学生対策検討WGを立ち上げ、ケア対策を検討し、結果を「主体的な学びへ導くための実行プラン2014」に反映させた。</p> <p>全学教務・FD委員会の具体的な検討を受けて、学生委員会に関わる必要な対応等を平成26年度の検討課題とした。</p> <p>当初の計画にはなかったが、教育研究評議会の下に「学生の倫理憲章策定WG」を設置し、学生倫理憲章(「北海道情報大学学生として守るべききまり」人として、学生としての品格を身につけるための11か条)を策定した。</p> <p>各学科教員との連携による就職指導の在り方について、継続的に就職委員会で検討をしており、就職情報の共有に関しても、教授会、学科会議で、学生の就職状況、就職指導の内容等について報告し、学内における就職に対する意識の向上に努めた。</p> <p>就職相談・助言等の指導体制について、外部機関とも連携した就職指導の強化を検討し可能なものから実施した。外部機関との連携に関しては、ヤングハローワーク、中小企業家同友会、ジョブカフェ等と連携、学生の就職指導等の多様な支援活動を実施した。</p> <p>就職環境・内定状況に応じた支援プログラム(企業合同説明会の開催、ジョブカフェ個別相談会)等を機動的に企画し実施した。また、就職未内定者へは特別支援を実施し就職率の向上に努めた。</p> <p>資格取得ハンドブックを発行し、必要な資格取得試験等の案内を行った。このような状況提供を進めつつ、基本情報技術者試験その他の対策講座を実施するとともに、各種資格取得者に対する受検料補助を行った。</p> <p>インターンシップ受入企業について、平成24年度の実績を踏まえてさらに受入企業の拡大に努めた。また、平成25年度から新たに始まった江別市役所インターンシップも積極的に取り組み3名の学生が参加した。合計では、11団体に18名の学生が参加した。</p> <p>保健センター、学生相談室の関係者との打合せを随時実施するも、必要に応じて適宜連絡会議を開催し運営の円滑化を図った。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>◎課外活動、自主的活動への支援 課外活動、その他の厚生事業等を適正に運営するとともに学生の自主的活動等を支援する。</p> <p>◎経済的支援 経済的に困難な学生を支援し、経済困難から退学や除籍になる学生への支援対策を推進する。</p> <p>◎留学生 1 留学生の受け入れ体制から教育支援まで全学的なサポート体制をつくり、学内外での異文化交流を充実させる。</p>	<p>学生の課外活動、奨学金、その他の厚生事業等の適正運営について検討する。</p> <p>経済的困難による退学や除籍になる学生への支援対策を検討する。</p> <p>1-1 住環境整備、関連職員・カウンセラー等の充足、経済支援制度の強化、就職支援の充実等、留学生の支援制度を拡充する。</p> <p>1-2 留学生の日本語力や授業受講能力向上を図るとともに、授業における留学生補助なども検討する。</p>	<p>1-1-2 健康診断の実施、保健指導・学生相談等の充実実施に努め、更なる業務の充実について検討する。</p> <p>学生の課外活動その他の厚生事業等について、学生の意見・要望等を踏まえ、引き続き自主的な課外活動の支援方策等について検討する。</p> <p>経済的理由により退学や除籍になる学生への支援対策について、全学教務・FD委員会での検討結果等を踏まえ、奨学金その他の支援方策等について検討する。</p> <p>1-1-1 留学生の受け入れ体制から教育支援までの全学的なサポート体制の強化を継続する。</p> <p>1-1-2 新入学留学生の日常生活相談窓口担当を、国際交流留学生支援事務室に配置する。</p> <p>1-2-1 新入学の留学生を対象とした受け入れ直後の新学期前の期間において日本語特別講座を実施する。</p> <p>1-2-2 在籍している外国人留学生を対象に日本語能力試験2級の受験対策講座を実施する。</p> <p>1-2-3 授業における補助は学習支援センターと協力して、留学生チュータを検討する。</p> <p>1-2-4 留学生の日本語力向上を目的として日本語弁論大会を実施する。</p>	<p>健康診断の実施、保健指導・学生相談の充実実施に努めた。特に、1学年の健康診断受診率は100%であった。感染症防止のために、新たにトイレ手洗いの改修を行った。さらに、予防ビデオを制作しPOLITEで公開するとともに、インフォメーションプラザでも放映をしている。また、インフルエンザ等の特定の感染症に罹患した学生には、当該学生の健康回復と周囲の学生への感染症防止のための出席停止措置をとり、特別欠席の対象とした。</p> <p>学生の課外活動その他厚生事業について、学生の意見・要望等を踏まえ充実を図った。</p> <p>経済的理由により退学や除籍になる学生への支援対策について、全学教務・FD委員会での検討結果等を踏まえ、奨学金その他の支援方策等を平成26年度の検討課題とした。</p> <p>住環境整備としては、大学所有の女子寮や大学が民間宿舎を借り上げて、留学生に格安な寮費で提供した。教育支援は、学習支援センターと協力して実施した。経済的支援としては、授業料の減免を行った。また、日本学生支援機構や本学独自の給付奨学金制度を活用して支援した。</p> <p>平成24年4月より、国際交流・留学生支援事務室に留学生の日常生活相談の担当専任として本学大学院卒業の先輩留学生を配置して対応した。</p> <p>平成25年4月入学予定の留学生を3月に受け入れ、新学期が始まる前段階でオリエンテーションを実施した後に6コマ(2コマ×3日間)の日本語特別講座を実施した。</p> <p>平成25年4月より、外国人留学生向けに日本語能力試験対策講座を毎週月水の課外の時間帯で特別講座として実施した。</p> <p>学習支援センターが3人の留学生チュータを採用して学習支援を行った。</p> <p>平成25年6月に「第4回留学生の日本語弁論大会」を実施し、7月に「表彰式及び学長と入賞留学生との昼食会」を行った。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>◎大学院</p> <p>1 生活支援・就職活動等の支援の充実、キャンパス生活向上のため、柔軟かつ適切に対処する。</p>	<p>1-1 院生の健康・メンタルヘルス相談制度、経済支援に関する方策を点検するとともに、院生の就職活動への相談体制を充実させるため企業が求める人材の調査研究を推進する。</p>	<p>1-2-5 留学生の日本語力向上や異文化交流を目的として地元、地域も含め学内外でのさまざまな行事に積極的に参加させる。学内の行事として「本学学生と留学生との日中文化交流会」を実施する。</p> <p>1-1-1 大学院生の就職活動支援の現状の問題を引き続き整理する。</p> <p>1-1-2 健康面等における支援の現状の問題点を引き続き整理する。</p>	<p>平成25年9月と10月に、留学生2名が札幌国際プラザの紹介で札幌市民宅でホームステイの体験をした。また、10月20日に開催した「江別世界市民の集い」に於いて「世界の料理」コーナーに留学生5名が出店参加し、地元住民と交流した。11月30日に江別日中友好の会主催による「日中交流サロン」に参加した。</p> <p>学内行事として、7月に本学の異文化交流会の日本人学生と留学生との合同で日帰りバスハイクや9月に聴講生歓迎茶話会を実施して交流を深めた。また、平成26年1月に「本学の日本人学生と中国からの留学生との日中文化交流会」を実施した。</p> <p>年度当初の計画には無かったが、外国人留学生の就職支援のために、札幌商工会議所が全国中小企業団体中央会の補助事業として取り組んでいる「札商アジアブリッジプログラム」に、4名の留学生を登録申請し、就職支援を行った。</p> <p>来年度以降、大学説明会等における企業アンケートに大学院に関する項目を追加するよう依頼することが決まったが、項目等については来年度以降検討する。</p> <p>アンケートの実施の必要性等について検討したが、実施はできなかった。平成26年度に実施する。</p>
<p>(7) 教育環境に関する目標</p> <p>1 教育施設・設備を拡充するとともにそれらを効率的に運用し教育環境の向上を図る。</p> <p>2 本学の学部・学科の特色を生かした教育環境を整備する。</p>	<p>1-1 施設・設備の優先順位を明らかにするキャンパス・マスタープランを作成し、教室の大きさや音響、レイアウト、また講義で使用するソフトや機器の数・配置等が講義の性格、及び受講生の数と適切であるかを検討する。学部・学科別の校舎・フロアへの再編を行い、空調設備の整備、図書館の充実を図り、24時間利用可能なキャンパスを目指す。</p> <p>2-1 ゼミナールを本学の専門教育の中核と位置付け、各種イベント等の顕彰制度の充実を図る。</p> <p>2-2 医療情報センター、バイオ実験施設など各専門研究教育設備の拡充を図る。</p>	<p>1-1-1 空調関係は、第Ⅱ期保全計画(平成26年度～平成30年度)検討前に、学内要望等の取りまとめを行う。</p> <p>【先端経営学科】</p> <p>2-1-1 平成24年度に構築した1年生前期から卒業までの少人数教育体制を運用していく。</p> <p>【先端経営学科】</p> <p>2-1-2 平成24年度に構築した主要必修科目の完全セメスター制度を運用していく。</p> <p>【eラーニング推進センター】</p> <p>2-2-1 POLITE及びCANVASのスムーズな運用のための運用システムの拡充と機能改善のためのシステムの改善を図る。</p>	<p>空調関係の学内要望の取りまとめは、平成27年度以降の計画で検討するため、実施しなかった。</p> <p>【先端経営学科】</p> <p>ICT入門、自己発見ゼミナール、プロジェクトゼミⅠ・Ⅱ、及び3年次ゼミ4年次ゼミ、卒業論文と少人数教育を実施した。ICT入門では、学生55名に対し教員6名を配置して演習をした結果、昨年に比して優(4)1名が6名に、優(3)11名が23名に、良22名が14名に、可17名が8名に不可10名が4名になり、改善された。</p> <p>【先端経営学科】</p> <p>主要必修科目の完全セメスター制度の運用を実施した。</p> <p>【eラーニング推進センター】</p> <p>POLITE及びCANVASに対する改善要求に適切に対応した。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
	<p>2-3 メディアクリエイティブセンター(MCC)を中心にゼミナール、プロジェクト学習での利用に相応しい施設・設備の整備を定期的実施する。</p>	<p>【eラーニング推進センター】 2-2-2「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデル」のシステム開発及び改善を図る。</p> <p>【医療情報センター】 2-2-1 医療情報センターは、各種実習やAOセミナー、さらに高校生への実務体験施設として利用しているが、併用の健康情報科学研究センターとしての用務や分析・解析研究が態勢を占めつつあり、バーチャルホスピタルの移設の必要性を検討中である。</p> <p>【バイオ情報解析室】 2-2-1 機器設置やスペースの拡充に関する課題について、情報集積のためのサーバの設置、バイオ・医療情報解析機器・ソフトの導入、実験スペースの拡充の3点を達成目標にし、競争的資金を獲得し、本施設の改善・拡充を図る。また、医療情報学部の新設に伴い、それに伴う健康情報コースの教育施設としての利用も図る。</p> <p>【会計課】 2-2-1 各センターの設備要望確認後、各センターからのリース案件に対して関連部署と調整の上、最適のリース期間等を検討する。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 2-3-1 環境改善のため、ノートPCを6台拡充する。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 2-3-2 MCCの実績をまとめたPDFでのパンフレットを作成する。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 2-3-3 MCCの機材貸出管理システムを運用開始する。</p> <p>【会計課】 2-3-4 各センターの設備要望確認後、各センターからのリース案件に対して関連部署と調整の上、最適のリース期間等を検討する。</p>	<p>【eラーニング推進センター】 「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデル」の試行を踏まえ、システム開発及び改善を図った。</p> <p>【医療情報センター】 4月当初の委員会にて、本年度も各種実習やAOセミナー、さらに高校生への実務体験施設として利用することを確認した。また、1年更新となっている電子カルテシステム及びオーダーエントリーシステムなどの交換についての検討を進めた。なお、食の臨床試験として設立した健康情報科学研究センターとの重複を解消するため新たな学内組織の構築に向け検討した。</p> <p>【バイオ情報解析室】 機器設置スペースについては、「健康カード事業」も開始され人員も増員されたことから、十分なスペースを必要を準備する状況にあるため早急に対策を取る必要があったが、機器を隣接した部屋に移動しスペースを確保した。機器整備については、遺伝子情報の集積に必要な遺伝子解析装置(私学助成金補助事業)を導入し、充実を図った。ソフトの導入については、iPadなどで利用できるアプリ開発に取組んでおり、ヒト介入試験及び学生のための教材として活用を始めた。また、健康情報コースの教育施設として、健康情報科学研究センターを学内組織として立ち上げ、本解析室の改組を検討した。</p> <p>【会計課】 各センターから要望が発生の都度、リース期間調整を行う予定であったが、各センターからリース物件の要望はなかった。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 ノートPCを6台拡充した。加えて、3Dプリンターを購入した。PCのシステムを再構築し、制作環境を整備した。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 パンフレット作成のため、実績をまとめている状況である。加えて、Facebookのグループページを公開し、最新の活動状況を公開できる体制を作った。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 機材貸出管理システム構築のため要件を整理したところ、システム化する前に学生利用の権限管理を見直す必要が出てきた。そのため、平成25年度のシステム開発は中止とした。</p> <p>【会計課】 各センターから要望が発生の都度、リース期間調整を行う予定であったが、各センターからリース物件の要望はなかった。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
3 情報センターの機能を充実させる。	3-1 講義で学生全員がモバイル端末を利用できる環境を整備する。	3-1-1 システム情報学科で試行するiPadによる講義において問題点や課題を探り、解決策等を検討する。	主体的学びプロジェクトにおいて、1・2年生全員にiPadを貸し出し、教室内でiPadを利用した教育ができる環境を整備した(iPadの購入、教室内無線LANアクセスポイントの設置)。
4 大学院の特色を生かした教育環境を整備する。	3-2 仮想サーバ・クラウド等の技術が利用可能かの検討を行い、資源の有効活用を図る。	3-2-1 引き続き、クラウド化を検討する。	メールのクラウド化等について検討した。
5 カリキュラム、シラバスと密接に連動し、学生の利用動向を把握し、学生、教職員のニーズに応えた図書館サービスを提供する。	4-1 大学院における教育環境のさらなる向上を検討する。	4-1-1 必要があれば、教育環境の向上を検討する。	平成25年度は、検討の必要がなかった。
	5-1 学生の利用動向を把握し学生のニーズを反映した図書を整備するとともに、学生、教職員への文献サービスの体系的な整備充実を図る。	5-1-1 平成24年に行った学生利用アンケート結果に基づき、学生のニーズを反映した図書館の整備充実策を策定する。また、教員のアンケート調査を実施し、その結果を基に整備充実策を検討する。	学生図書館利用アンケート結果に基づく対応として、図書館の利用率向上のためにビギナーズセミナーでの活用を行った。また、HP利用者の向上については、あらゆる機会を通してPRすることし、学生の利用促進のため、ポータルサイトに図書館情報をタイムリーに掲載し、特に新着情報案内や、企画展示を行い、新鮮な情報を届けることにつとめた。教員アンケート調査については、11月に実施した。調査結果に基づく対応については、今後可能な限り、図書館運営に反映していくこととした。
II 教育に関する目標			
II-2 通信教育部の教育に関する目標			
(1) 教育研究組織に関する目標			
1 大学通信教育の動向や社会的ニーズを把握して、ICTを活用した教育サービスを行う。	1-1 通信教育のニーズや通学と通信教育の設置基準の統合に関する中教審の動向を調査する。	1-1-1 社会的ニーズや文科省の大学通信教育政策の動向に注意を払い、引き続き、教育サービスのICT化に取り組む。	平成25年度から学内のeラーニング推進センターの定期的な会合にも出席するようになった。また、私立大学通信教育協会の会合や研修会にも積極的に出席するようし、社会動向を把握するよう努めた。
	1-2 専門職業教育や生涯教育科目の充実を図る。	1-2-1 専門職業教育や生涯教育科目について検討を始める。	平成26年度のカリキュラムには、専門職業教育や生涯教育を意識した科目を追加した。
2 通信教育システムの改善と高度化に努め、情報に関わる通信教育の拠点機能を実現する。	2-1 eラーニング科目の拡充を図るとともに、ICTの利活用を進め、通信インフラを整備する。	2-1-1 通信教育の拠点機能の充実に努める。	平成25年度には、eラーニング科目を新規2科目と大幅改修2科目、合わせて4科目を開講した。
(2) 教育の成果に関する目標			
1 教育成果の評価を行う体制を作る。	1-1 通信教育の特性を加味した評価方式を作る。	1-1-1 昨年度のGPAによる成績評価を分析して、教育の改善に努める。	GPAの試行から2年目となり、引き続きデータを蓄積し、科目ごとのGPAや教育センターごとのGPAなどの分析を行った。また、平成26年度からは、GPA値を奨学生候補者の判定基準とすることとした。
2 多様な社会人履修者の学習意欲を高めるような教育体制を整える。	2-1 学習目的や成果を明確にして、達成度を客観的に評価できる方法を検討する。	2-1-1 (3)教育の内容・方法等に関する目標と関連付けて検討する。	国家試験等の単位を認定する制度を大幅に見直した。平成26年度から新たに、22の試験について単位認定を行うこととした。
(3) 教育の内容・方法等に関する目標			
1 ICTの進展に応じて授業形態を見直し、IPメディア授業やインターネットメディア授業の教育効果を高める。	1-1 社会的ニーズや今後の成長が見込まれる分野を検討し、履修モデルコースの見直しを行う。	1-1-1 学科名称や履修モデルコースの見直しについて検討を始める。	平成26年度のカリキュラム検討においては、今後の成長が見込まれる分野を意識して検討を行った。

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
2 教育手段としてICTの積極的な活用を図る。 3 教育サービスの向上に努める。	2-1 ICTの利活用について総合的に検討し、実施計画を作る。 3-1 インターネットによるQ&Aを授業全体に拡充する。	1-1-2 引き続き、社会的ニーズや今後の成長が見込まれる分野を検討する。 2-1-1 昨年度改修した4科目のメディア授業及び新しい方式の「卒業論文」を実施する。 3-1-1 レポート提出のICT化について検討する。	「イノベーション」や「ビッグデータ」、「健康」、「ホスピタリティ」などに関する分野を意識して検討を行った。 平成25年度には新たに4科目のeラーニング(インターネットメディア授業)を開講した。また、卒業論文に関してもネット上で指導ができる仕組みを開発し、利用を開始した。 eラーニングによる学習が、タブレット端末でもできるようにシステムの改修を行った。また、平成26年度からは、一部の印刷授業科目でオンラインでのレポート提出ができるように、その仕組みや制度について検討を行った。
(4) 学生の受入れに関する目標 正科生Aや科目等履修生の増加対策を検討し、通信教育受講生を拡大する。	通信教育のニーズを踏まえ、社会人及び生涯学習を目指す人々に受け入れやすい制度やプログラムを企画する。	入学者の動向を注視して、必要に応じて見直しを図る。	社会人にアピールするカリキュラムを検討した。また、Webで出願できる仕組みの導入も検討し、平成26年の8月からの実現に向けてシステム開発を開始した。
(5) 教育の実施体制に関する目標 1 教育センターや通学との連携を図り、通信教育を円滑に実施する体制をつくる。 2 社会人を含む多様な学生に対する学習支援体制をつくる。 3 教育設備等の充実を図り、全学的な通信教育の支援体制をつくる。	1-1 通信教育担当教員の任用規程や通信教育に関わる諸規程を整備する。 2-1 社会人を含む多様な学生に対する学習支援方法や支援体制を検討する。 3-1 通信教育担当の人員や教育設備等の充実計画を作成する。	1-1-1 教育センターとの教育責任者協議会を11月に開催する。 2-1-1 引き続き、他大学の調査結果及び「通信教育の拠点機能」の内容と関連付けて検討する。 3-1-1 教育方法のICT化に伴う設備の増強について検討する。	今年度の教育責任者協議会は、11月7日に開催し、各教育センターからの要望などについて情報交換を行った。 7月には明星大学を、2月には京都教育大学を訪問し、また私立大学通信教育協会などを通じて、他大学における学習支援の状況などについて情報交換を行った。 eラーニング利用環境の信頼性向上のために、サーバのクラウド化について検討を進め、平成26年度からの運用に向けてシステム改修などを行った。
(6) 学生の支援に関する目標 1 正科生Aや科目等履修生に対する学習支援体制と相談窓口を整える。 2 学生の利便性を考慮して、各種制度を整備する。	1-1 ホームページに相談窓口を設けて、相談体制を整備する。 2-1 奨学金制度の拡充を図る。	1-1-1 引き続き、他大学の調査や「通信教育の拠点機能」の内容と関連付けて検討する。 2-1-1 ATMによる学費等の納付を実現する。	学生ポータルサイトに寄せられた意見には常に着目し、必要に応じて対応を行った。また、スクーリングや科目試験の際には、学生へのアンケートやヒアリングを行い、情報収集を行った。 コンビニ決済やカード支払いを可能にするWeb出願について、平成26年度秋入学生から導入できるように、システム開発を開始した。
(7) 教育環境に関する目標 教育環境改善のための調査を行い、通信教育の改善に役立てる。	通信教育の内容を加味した学生満足度調査項目を作成し、調査を実施する。	学生満足度調査の項目や調査方法について検討する。	全体的な満足度調査は無着手であるが、夏期スクーリングの一部の教育センターに関しては、満足度調査の試行を行った。
Ⅲ 研究及び社会連携に関する目標			
(1) 研究及び社会連携に関する目標			

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>1 教員の研究活動の活性化のために支援体制を整え、研究水準の向上を図る。</p>	<p>1-1 研究活動を適正に評価し、その結果を研究活動の質の向上に結びつける体制を確立する。</p> <p>1-2 積極的に各種学会、講演会を招致する。</p> <p>1-3 国内外への中長期研修制度(サバティカル)の導入を図り、国際会議参加への旅費等の支援体制を整える。</p> <p>1-4 科研費に関する講習会等を実施し、科研費への申請を促す。</p> <p>1-5 大学院の研究活動を推進するため、研究環境を整備する。</p> <p>1-6 国内外の大学や研究所から講師や研究者の招聘に務める。</p>	<p>1-1-1 定着化しつつある新しい評価システムの確立を図る。また、有望な萌芽的研究の在りかたについて検討を継続する。</p> <p>1-3-1 「国内外への中長期研修制度(サバティカル)」及び「3学期制(ないしはクォーター制)」の導入可能性について検討する。</p> <p>1-4-1 本年度も、勉強会を開催する。</p>	<p>検討を進めた。</p> <p>【先端経営学科】 ・9月6日(金)に本学ゼミ室24において一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)のOCR専門委員会を開催し、参加者は8名であった。</p> <p>【医療情報学科】 ・5月23日(木)に本学松尾記念講堂において講演会「ITを駆使した最先端の医療とは」(神戸大学特命講師:杉本真樹先生)を開催し、参加者は約300名であった。 ・7月6日(土)に本学松尾記念講堂において「北海道医療情報技師会講演会」を開催し、参加者は約100名であった。 ・7月6日(土)に本学松尾記念講堂において「日本医療情報学会北海道支部講演会」を開催し、参加者は約100名であった。 ・8月10日(土)に本学松尾記念講堂において「日本医療情報学会 生涯研修セミナー in 北海道」を開催し、参加者は約100名であった。</p> <p>3学期制(ないしはクォーター制)の導入については、全学教務・FD委員会に設けられた「将来履修モデルの検討WG」にて検討を進めている。サバティカルについては検討できなかった。 国際会議等で発表する場合には、個人研究費から支出することができるよう制度を改め、支援体制を整えた。</p> <p>科研費の申請等に関する勉強会を9月26日に実施した。また、リサーチアドバイザー制度を創設し、4人のアドバイザーによる科研費等の外部資金の獲得に向けてのサポート活動を行っていくこととした。</p> <p>11月23日(土)に本学松尾記念館講堂において日本、スイス、タイ王国から研究者等を招聘し、「食と健康フォーラム2013」を開催した。参加者は300名であった。</p> <p>本学における研究重点分野を「教育と知識と情報」、「食と健康と情報」及び「宇宙と環境と情報」の3項目と定めた。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
2 研究の学内環境の整備・改善を図る。	2-1 電子ジャーナル及び学術情報データベースの整備・充実と、ネットワークを介した各種図書館サービスの充実を図る。	2-1-1 学術情報データベースについて全般的には現在のまま、運用していく事とするが、平成24年度に1年間試験運用した「北海道新聞データベース」の利用実績等を分析し、分析結果に基づき継続についての検討を行う。また、各種データベースの使用の簡便化を図るためホームページの一部、レイアウトの見直しを行う。	学術情報データベースについて、予定通りタイトルの変更等は行わず運用した。「北海道新聞データベース」は使用頻度が少なかったため、次回更新は見送ることで検討することとした。ホームページのレイアウトの見直しを行い利用しやすいよう変更した。
(2) 地域貢献・産学連携に関する目標 1 教育研究成果を広く社会に還元し、企業・地域社会などと幅広く連携する取り組みを拡大する。 2 ICTを通じた産学連携研究を推進し、地域の要請に応じる。 3 図書館サービスを学外に開放し地域住民への生涯学習活動支援に努める。	1-1 各種公開講座、研究会を開催するとともに、企業・行政との連携を強め、教育・研究の成果を社会に広く還元する。 2-1 地域社会との連携及び産学連携活動として展開する研究活動等の支援体制・評価体制を整備・実施することに努める。 3-1 地域情報資料コーナーの充実や近隣公共図書館との交流を促進し、学外利用者の利用を促進する。	1-1-1 公開講座、外部機関との連携講座を実施する。 2-1-1 地域貢献・産学連携を担務する組織の整備を継続して進める。 3-1-1 平成24年度に引き続き、地域情報コーナーの資料の充実を実施し、近隣図書館への広報を推進する。また、学外利用者の利用促進に向けて、図書館見学会を年2回実施する。	年度計画に従い実施した。 継続して検討することとした。 地域資料の収集は、継続して行った。学外利用者の利用促進の一環として、平成25年度は図書館市民見学会を2回実施した。7月20日(土)に1回目を、2回目を11月16日(土)に実施し、参加者数は1回目5人、2回目4人であった。
(3) 国際交流に関する目標 1 学生及び教員による国際交流を推進し、充実させる。	1-1 これまで行っている海外での語学研修の充実と、日本の文化等に関心のある外国人留学生の受け入れにより、学生の異文化への関心を高めることを図る。	1-1-1 海外事情(米国編・中国編)による語学研修を引き続き実施する。 1-1-2 タイ国ラジャマンガラ大学(RMUTT)等日本の文化に関心のある外国人留学生の受け入れについて検討する。 1-1-3 タイ国ラジャマンガラ工科大学(RMUTT)と交流を推進するために「Webデザインワークショップ」に加えて、「ショートフィルム」、「プログラミング(含むゲーム)」、「ETロボコン」等の実施について検討する。	海外での語学研修授業「海外事情米国編」は平成25年8月10日から9月1日の日程で学生11名が参加した。「海外事情中国編」は日中間の政治上(尖閣諸島)の問題もあって、留学希望者が少なく中止となった。 中国から13名、仏国から1名、タイ王国から20名の外国人留学生を受け入れた。 これまで「Webデザインワークショップ」として実施していたプログラムは、今年度(平成25年度)より新規科目「国際コラボレーション」として開講され、本学から学生11名が平成25年8月11日から8月23日までタイ王国ラジャマンガラ工科大学を訪問し、平成25年8月30日から9月10日まで、ラジャマンガラ工科大学から学生10名が本学を訪問し「Webデザインワークショップによる技術・文化の相互啓発」を目的とした交流を行った。 また、「ショートフィルムコンテスト」プログラムも上記、「国際コラボレーション」と同様に同じ時期にお互いの学生10名を相互派遣して共同ワークショップ、表彰式、文化交流を行った。 「プログラミング(含むゲーム)コンテスト」、「ETロボコン」は、インターネットを利用して実施した。 なお、「ショートフィルムコンテスト」プログラムは、次年度より科目「国際コラボレーション」に追加することとした。

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
<p>2 世界に本学の教育研究の特徴を知らしめるように英語等での情報発信を充実させる。</p>	<p>1-2 単位互換等による交換留学制度を整備し、学生の国際交流の育成を図る。</p> <p>1-3 外国人留学生の日本語能力の向上を支援する体制の充実を図る。</p> <p>2-1 インターネットを活用し、特色あるカリキュラムや教育システムを海外に知らしめるように英語等によるコンテンツの企画、作成を図る。</p>	<p>1-1-4 米国LWIT、中国南京大学への語学研修授業「海外事情」、タイ国RMUTTとの「Webデザインコンテストによる技術・文化の相互啓発」を目的とした交流の活動報告を小冊子「国際交流レポート」にまとめ製本し発行する。また、それらの内容の一部をデジタル化し公開する。</p> <p>1-2-1 単位互換等による交換留学制度について検討する。</p> <p>1-3-1 新入学の留学生を対象とした受け入れ直後の新学期前の期間において日本語特別講座を実施する。</p> <p>1-3-2 在籍している外国人留学生を対象に日本語能力試験2級の受験対策講座を実施する。</p> <p>2-1-1 平成25年度版(2013年度版)の大学案内の中から特色あるカリキュラム「宇宙情報システムコース」や「観光情報システムコース」などを海外に知らしめるように英語等によるコンテンツの企画、作成を図る。</p>	<p>平成25年8月8日にタイ王国のラジャマンガラ工科大学の理事長、副理事長、8分校の学長、副学長を含む総勢20名が本学を表敬訪問し、本学との協力関係強化を確認するとともに、今後の交流について意見交換を行った。</p> <p>年度当初の計画には無かったが、財団法人北海道青少年科学文化財団が主催している「サッポロ・インターナショナル・ナイト」(国際的な学生討論会)に本学の学生20名が参加した。29か国、427名が参加した討論会の英語による総司会に本学の学生が任命された。</p> <p>海外での語学研修授業「海外事情米国編」やラジャマンガラ工科大学との交流、また本学に在籍している外国人留学生の年間を通じた行事の実施報告などを「国際交流レポート」として、平成26年2月に冊子の発行とデジタル化してWebでの公開を行った。</p> <p>次年度以降の検討課題とした。</p> <p>平成25年4月に入学予定の留学生を3月に受け入れ、新学期が始まる前段階でオリエンテーションを実施した後6コマ(2コマ×3日間)の日本語特別講座を実施した。</p> <p>4月より、外国人留学生向けに日本語能力試験対策講座を毎週月水の課外の時間帯で特別講座として実施した。</p> <p>本学のホームページで大学紀要、カリキュラム概要、シラバス等を公開している。また、「宇宙情報システムコース」や「観光情報システムコース」などの科目紹介は、新年度カリキュラム全体を網羅した大学案内(英語版、中国語版)パンフレットとして製本し、発行した。</p> <p>年度当初の計画には無かったが、グローバル人材育成を目的としてアメリカ発祥のカンファレンスであるTEDイベント「TEDxHIU」を本学で学生スタッフ約50人が主体となって9月に開催した。日本国内では、9番目となる大学として開催した。本学の現役学生4名を含む7名の登壇者が100名の観客相手に各自のビジョンを発表し、世界に向けて動画サイトで情報を発信させた。</p>
<p>IV 管理運営に関する目標</p>			
<p>(1) 管理運営体制の改善に関する目標</p> <p>1 建学の理念に基づき、大学の進むべき方向を戦略的にまとめ、全学的視野に立った機動的な大学運営の遂行に努める。</p>	<p>1-1 情報を核とした4つの機能を果たすために、理事会、評議員会、教育研究評議会、教授会などが協調し、教育・研究・社会貢献に関する基本戦略を定める。</p>	<p>1-1-1 基本戦略を策定する組織を決定し、必要な機能・人的配置・規程等について整備する。</p>	<p>教育研究に関する中長期的な戦略計画を審議するため教育研究戦略委員会を設置、規程を制定し、毎月開催した。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
2 情報の一元管理を行う。	1-2 最適な資源配分と機動的な運営体制の確立を図る。 2-1 教育関連のシステム、ポータルサイト、学生管理システムなどのシステム統合を図り、情報の一元化を行う。	1-2-1 最適な資源配分と機動的な運営体制について、あらためて具体的な内容について洗い出しを行う。 2-1-1 学園総合情報システム(campus)のリプレースの検討を行うので、他のシステムについても統合可能なものについては情報の一元化を図る。	大規模災害(大規模地震・感染症の大流行・気象災害等)に対して全学規模の緊急連絡網が存在しなかったため、平成25年12月より安否確認システム(外部業者システム)を導入し、全学生・全教職員に対するスマートフォン・携帯電話・自宅PCへの緊急連絡手段の構築を行った。これにより、大規模災害によって大学内のシステムが利用不能となっても全学生・全教職員へ緊急連絡が可能となった。登録実績は、全学生1,762名中1351名(77%)、全教員82名中80名(98%)、全職員86名中85名(99%)、総数1,930名中1,516名(79%)であった。 検討できなかったため、平成26年度に引き続き行うこととした。 学園総合情報システムのリプレースにおいて、教務関係情報を教員と共有化する事を検討した。
(2) 組織倫理・危機管理に関する目標 1 社会的な公器とされる大学により一層の社会的ルールの遵守が求められるなかで、組織倫理の確立とコンプライアンスを推進し、全学的な安全管理体制を構築する。 2 セキュリティポリシーの実質化を行う。	1-1 目標を達成するための啓蒙活動により教職員のモラル向上への活動を進める。 1-2 危機管理マニュアルを整備し、組織倫理の確立と危機管理能力を向上させる。 2-1 セキュリティポリシーにのっとり、各部門の責任者を明確にし、セキュリティの維持を図る。	1-1-1 目標を達成するための教職員の啓蒙活動について、モラル向上のための具体的活動を推進する。 1-2-1 危機管理マニュアルに記載する項目について内容の調査を行い素案をまとめる。 1-2-2 作成した消防計画について、必要があれば見直しを行う。 2-1-1 現在設定されている本学のセキュリティポリシーについて改善項目の洗い出しを行い、時代に即したセキュリティポリシー制定の準備を行う。	職員への周知は、大学事務会議等で法令順守等について周知徹底、注意喚起を図った。 危機管理マニュアルに記載する項目の洗出しを実施した。 国際交流に伴う危機管理対応ガイドライン(2013年度版)を策定した。 平成25年度消防訓練実施結果を踏まえ、消防計画変更項目の洗い出しを行った。また、地震その他の災害等に備え、非常用物品(非常用食料・避難生活用品)の備蓄を行った。 情報セキュリティ研修会等を受講し、時代に即したセキュリティ項目の洗い出しを行った。
(3) 教育研究組織の見直しに関する目標 1 人材育成に関する社会のニーズを的確に反映し、高度な職業人養成を中心とした実践的な教育研究を行う。	1-1 時代に即した改組・改編の提言を行うための柔軟な組織作りを検討する。 1-2 カリキュラム及びキャリア教育について定期的に見直す。	1-1-1 平成25年度から実施する改組改編について検証の為の準備を行う。 1-2-1 カリキュラムアドバイザーボード会議を9月に実施する予定である。 1-2-2 カリキュラムアドバイザーボード会議で評価を受けることを検討する。	医療情報学部設置に係る設置計画履行状況を検証し、文部科学省への報告を行った。 平成25年9月6日(金)、「大学における基礎教育」をテーマに、第8回カリキュラム・アドバイザーボード会議を開催した。 カリキュラム・アドバイザーボード会議ではテーマにそぐわないため実施しなかった。

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
2 通信教育における教育研究拠点として相応しい研究教育活動を支援する体制の拡充及び活性化に努める。	2-1 通信教育を一つの生涯教育として位置づけるための教育体制作りを行う。	2-1-1 本学の通信教育の特徴である全国の教育センターについて、その機能と役割を明確にするための準備活動に取り組む。	全国の教育センターとの連携を深め、課題解決や情報交換の機会として、平成25年11月7日(木)に教育責任者協議会を開催した。
(4) 教職員人事と適正配置に関する目標 1 大学としての社会的使命を果たすために、教員情報の開示とともに、教職員の能力が最大限に発揮できるような適正かつ弾力的な人事管理に努める。	1-1 教育研究機能や学生支援機能を充実させるため、教職員の適正な人事考課、及び人事考課に基づく処遇を検討し、効果的な人事制度を確立する。 1-2 新任教員採用のときの担当科目、採用条件などを学科内で開示して議論する体制を作る。	1-1-1 教員の業績考課の方法について資料を収集し検討する。	教員の業績考課に係る数大学の実施方法の資料を収集した。
(5) 事務等の効率化・合理化に関する目標 1 私立大学法人として適切な事務組織を確立し、効率化・合理化を積極的に進める。	1-1 限られた資源の有効活用及び効率的な事務の実行実現に向けて、業務全般の権限と責任の所在を明確にする。 1-2 事務処理の在り方、事務職員の適正な配置を行う。	1-1-1 適切な事務組織の確立には事務業務の内容について詳細に知る必要があり、業務内容を明確にするための事業計画について検討する。 1-2-1 上記1-1-1の事業計画と併せて事務改善について検討する。	平成25年度の各部署における行事計画等を策定し、計画の変更状況を11月末までに修正し、業務内容、実施時期を明確にした。 上記の行事計画を基に各課・室において検討した。
(6) 広報活動に関する目標 大学における情報公開の義務化を受け、受験生中心の広報活動だけでなく、本学の教育研究の現状や成果について広く社会に広報する活動を強力に推し進める。	インターネットその他の媒体を効果的に利用して積極的な情報公開を行うために、教員組織、事務組織が一体となって情報公開を進めるためのシステム作りを行う。	大学広報を含めて、広報連絡協議会が主体的に活動している内容について支援すると共に検証出来るような内部体制を検討する。	内部体制の検討について着手できなかった。
V 財務に関する目標			
(1) 資産の運用管理に関する目標 大学が保有する資産の点検・評価を基礎に、資産の有効活用を図る。	資産の点検・評価を行う公正な組織を構築し、それぞれの特性に応じた効率的な運用を行うとともに、十分に活用されていない資産を洗い出し、それら資産の活用と運用の体制を作る。	知的財産を管理する体制を作り、整備する。	大学で管理・運営していた職務発明等に係る知的財産の事務を法人本部に移管した。移管後の知財運用については「北海道地域中小規模大学知財ネットワーク」を通して事例等を調査して、中小規模大学に合った運用体制を検討した。
(2) 外部研究資金その他自己収入の増加に関する目標 大学財政の健全化のために欠かせない競争的研究資金、受託研究費等外部資金の一層の獲得を図るとともに、自己収入の増加に努める。	自律的な大学運営を行うために自己収入を増加させるために、外部資金導入に関する情報の収集と公開を進め、積極的な獲得活動を展開する。	引き続き外部資金導入に関する情報の収集と公開を進め、積極的な獲得活動を展開する。また、寄附金関連の整備について他の事例を検証し、本学への適応可否について検討する。	全職員に公募情報の周知徹底を図り、積極的な獲得活動を行った。 寄附金関連の整備については、着手できなかった。
(3) 経費の抑制に関する目標 管理運営費の一層の抑制に努める。	効率的な大学運営の仕組みを構築しつつ無駄な経費の抑制を図る。	引き続き支出項目の見直しを実施し、経費の抑制を図る。	支出項目の見直しを行い、経費抑制に努めた。
(4) 施設設備の整備・活用に関する目標 キャンパス環境のより一層の整備・保全を行うとともに、設備の活用に努める。	計画的な維持管理を行うための組織的な仕組みを構築し、きれいで清潔な環境の整備とともに、安全性・信頼性を基本に、教育・研究体制の変化に対応する柔軟で計画的な施設整備を行う。	施設整備の保全・活用については、大学運営の全ての面に関わっているため、各部署からの要求を含めて、検討する場を設ける。	保全計画に従い実施し、平成25年度で5か年保全計画を完了した。平成26年度以降の保全計画作成時、各部署からの要求を含めて、保全計画会議の場を設置し、検討した。

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画	平成25年度末評価
VI 自己点検評価、外部評価及び情報提供			
(1) 評価の充実に関する目標			
1 原則として5年毎に中期目標・中期計画を定め、毎年度これに基づく年度計画を定める。	1-1 平成23年度から5年間の中期目標・中期計画に基づく学校運営及び教育研究を着実に進めるとともに、平成27年度に次期中期目標・中期計画を作成する。	1-1-1 中期目標・中期計画に基づき着実に実行する。	平成25年度計画の達成状況を踏まえ、平成26年度計画を定めた。
2 中期目標・中期計画及び年度計画に対する達成状況の自己点検評価を実施し、定期的に自己点検評価書の作成・公表を行う。	2-1 毎年度、中期目標・中期計画及び年度計画に対する達成状況の自己点検評価を実施する。 2-2 原則として2年毎に、自己点検評価報告書を作成し、公表する。	2-1-1 中期目標・中期計画及び平成25年度計画の達成状況を自己点検評価する。 2-2-1 自己点検評価報告書を作成する。	中期目標・中期計画及び平成25年度計画の達成状況を自己点検評価した。 平成23年度及び平成24年度の活動状況を中心に「自己点検評価報告書」を作成した。
3 自己点検評価書に基づき、本学独自の外部評価を実施し、評価結果を公表する。	3-1 自己点検評価報告書に基づく外部評価を実施する。	3-1-1 外部評価の在り方について検討し、決定する。	外部評価委員会を設置し、平成25年度に作成した自己点検評価報告書を基に外部評価を実施した。
4 機関別認証評価は、7年以内に、継続的な自己点検評価と外部評価に基づいて受審する。	4-1 平成28年度に、機関別認証評価を受審する。		
(2) 情報公開等の推進に関する目標			
1 開示が義務化された教育情報及びその他の教育情報について公表を推進する。	1-1 教育情報の公表を着実に推進する。	1-1-1 教育情報を積極的に公表することを継続しながら、ホームページや各種の刊行物の公開状況を見直し、検討する。 1-1-2 ホームページ部会は、教員のプロフィールを学内外に、高校生でも解かる表現で紹介するページの整備作業を引続き行う。情報を広く収集し、ホームページからタイムリーに発信する仕組み作りを進める。 1-1-3 出版部会は、ビジュアルアイデンティティを導入する基準作りの作業を引続き行う。①ロゴマークの使用状況調査、②統一デザインの検討、③現状デザインの整備、④マニュアルの作成の手順を進めて行く。	情報公開した。 教員プロフィールは、一部整備を行った。また、タイムリーに発信する仕組み作りの検討を進めた。 8月30日及び2月5日開催の広報連絡協議会において、出版部会での検討を踏まえて、「シンボルマーク」、「漢字ロゴタイプ」、「シンボルマーク・ロゴタイプのセット」、「英文字ロゴタイプマーク」、「フクロウのキャラクターデザイン」及び「封筒に印刷するデザイン」について決定した。
2 財務情報・経営情報の公開を推進する。	2-1 財務情報・経営情報の公開を着実に推進する。	2-1-1 財務情報・経営情報を積極的に公表することを継続しながら、ホームページや各種の刊行物の公開状況を見直し、検討する。	情報公開については、継続して公開した。ホームページ等の公開状況の見直しについては、広報連絡協議会のホームページ部会において検討を進めた。
3 研究成果や地域連携関係の情報の公表を推進する。	3-1 研究成果及び地域連携関係の情報を、積極的に公表する。	3-1-1 研究成果及び地域連携関係の情報を積極的に公表することを継続しながら、ホームページや各種の刊行物の公開状況を見直し、検討する。	生命倫理委員会のページを開設し、委員会規程、委員名簿、平成20年度以降の審査状況を掲載・公表した。